耳鼻咽喉科アレルギー研究・診療施設紹介

社会医療法人栗山会飯田病院 耳鼻咽喉科・アレルギー科

部長 堀口茂俊

取材＆インタビュー

社会医療法人栗山会 飯田病院は，標高3,000m級の南アルプスや中央アルプスを望む南信州・飯田市にあり，暮らしに密着したきめ細やかな医療から急性期医療までを担う地域の中核病院です．耳鼻咽喉科は2011年（平成23年）に60年ぶりに開設され，設備面では，最新の聴力，平衡機能，聴性脳幹反応，重心動揺などの検査機器を完備．これに加え320列マルチスライスCT，脳活動部位の判定や血流異常部位の機能判定も可能な1.5テスラMRIなどの画像機器も揃えたとのこと．科学的根拠に基づく診断と治療に力を入れ，「鼻アレルギー診療がライフワーク」と語る堀口茂俊先生（耳鼻咽喉科・アレルギー科部長）に，同院の魅力や専門医としての鼻アレルギー診療の現在（いま）についてお話を伺いました．

毎月開催されるロビーコンサート．入場無料で市民の文化交流の場となっている．

飯田病院陸上競技部には，女子短距離，男子短距離，女子競歩，男子ハードルの選手が在籍．女子短距離の今井沙緒里選手は第101回日本陸上競技選手権大会女子200mで銀メダルを獲得した．

医療と文化が融合する場所

当院は1903年（明治36年）の開業以来，「医は仁術である」という理念のもと，地域の要請に応じて医療体制の充実を進めるとともに，人間らしく心豊かな生活を実現するための提案や活動に積極的に取り組んできました．病院そのものをアメニティ空間としてとらえ，医と文化が融合する場所であること，そしてスタッフ一同が人を慈しむ心を持つことが飯田病院のテーマです．その一環で支援活動として2001年（平成13年）より，国内トップクラスの演奏家や声楽家，落語家などをお招きしてロビーコンサートを開催しており，患者さんはもとより多くの地域の方々に楽しんでいただいています．また，スポーツ支援活動として，飯田病院陸上競技部では2017年度（平成29年度）オリンピック強化指定選手を含む4名の陸上競技選手の育成支援を行い，選手らとともに地域住民の健康増進につながる取り組みなどをしています．

耳鼻咽喉科専門医を基盤とする アレルギー専門医として診療と人材育成に貢献

私は耳鼻咽喉科専門医とアレルギー専門医の資格を持っています．なかでもとくに上気道のアレルギー疾患について専門的な治療を行っています．ただし，アレルギー疾患は上下気道，皮膚，その他の臓器とオーバーラップしていることが多いため，他領域のアレルギー疾患については当該専門医と連携して治療を行います．また，当院は日本アレルギー学会認定の専門医教育研修施設であり，指導医としてアレルギー専門医の育成にも力を注いでいます．地域においては，アレルギー疾患診療の質向上のため，各地域医師会へ対する講演活動を積極的に行っています．

厄介な鼻アレルギー治療のトレンドは変化している

アレルギー性疾患のなかで鼻アレルギーの特徴として，患者数が多く有病率が3割以上にのぼること，病悩期間において生産効率が極端に悪くなること，QOLが大きく障害されること，自然改善が少なく一旦発症すると長期にわたり症状に苦しむことが広く知られています．一方で，致死的になることは少なく，病態メカニズムの骨格が比較的はっきりしている典型的Ⅰ型アレルギーであることも大きな特徴です．

このような情報はインターネット上でも紹介されているため，特に花粉症などに対する患者さんの認識は変わってきていることを実感します．薬は症状を抑えるもので根本的な治療になるわけではないことを理解されており，薬物治療に対して費用対効果のよい方法を望まれる傾向にあります．たとえば，より安値な後発品を望んだり，症状が辛いときだけ使う薬があればそれを望むという具合です．患者さんのニーズが個人ごとに多様に変化するなかでアレルギー専門医としてどのように治療方針を定めればよいのかを日々考えながら診療しています．

セルフケア・セルフメディケーションに 積極的に関わる

これまで医師の処方箋が必要であった抗アレルギー薬がスイッチOTC薬として多数登場しています．花粉症は「病院で治療する」時代から，「病院で処方してもらうか薬局に買いに行くかを患者さんが主体的に選択する」時代になってきていると感じます．知識のある薬剤師も，花粉症の治療相談の最初の窓口としての役割を担うことになりますが，薬局では抗アレルギー作用を謳う特定保健用食品（トクホ）や機能性表示食品なども扱われており，これらをスイッチOTC薬と同列に患者さんに勧められては困ってしまいます．そのため，医師が行う鼻アレルギー治療の指針と薬剤師が患者さんに勧める薬剤の方針が大きく異ならないよう，研修認定薬剤師制度認定対象の集合研修会などで定期的に講演を行っています．

また，私も参加した厚生労働科学研究報告書「代替医療の実態と有効性の科学的評価」では，国内のアレルギー性鼻炎患者のうち，2割近くがなんらかの形で民間医療を受けていると報告しています．代替医療食品の効果について質問があった場合に，医師が行う説明と薬局で行う説明に齟齬があってはいけません．病院で医師が行う治療だけでなく，患者さんが主体的に選択するセルフケア・セルフメディケーションにも専門医として積極的に関わることを心がけています．

治療をやめても効果が長続きする 免疫療法や手術療法にも力を注ぐ

私は文部科学教官時代に舌下免疫療法の研究をしており，千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学教授の岡本美孝先生に師事し，わが国で最初のランダム化比較試験（RCT）論文を発表しました．この論文が第Ⅰ相／第Ⅱ相試験として国から評価され，製薬会社に第Ⅲ相試験として引き継ぎ，スギ花粉舌下免疫療法がわが国で利用できるようになったという経緯があります．そのためスギ花粉症に対する舌下免疫療法には並々ならぬ愛着があり，以来，花粉症治療をライフワークとしてきました．現在のところ，花粉症をはじめとする鼻アレルギーに根治治療の可能性があるのは舌下免疫療法を含む抗原特異的免疫療法のみであり，この実践と普及に努めたいと考えています．

また，手術による鼻アレルギー治療も積極的に行っています．薬物治療は服用中にしか効果がなく，さらにもっともよく使われる抗ヒスタミン薬はくしゃみや鼻水には効果が高い一方で，鼻詰まりには効果が小さいことを患者さんもよくご存じです．手術治療は主に鼻詰まりに対して効果が大きく，効果の持続も手術によっては生涯期待できるというメリットをお話しし，デメリット，コスト，リスクなどの患者さんのinformed consent（IC）に必要な情報を漏らさず提供するよう努めています．おかげさまでこれまでのところ，大変スムーズに患者さんのICを得ることができており，そのため手術実施後の満足度も高いことを自負

アレルギー疾患は身近な疾患ですが，
診療の目標や患者さんの期待は
どんどん変化しています．
専門分野の診療に優れ，かつ
アレルギー全般の診療も可能な
Total Allergist が求められています．

しています．

鼻閉を持つ鼻アレルギーに対する当院の手術療法として，日帰り手術ではコブレーターを用いた下鼻甲介粘膜焼灼術（図1）を，短期入院で行う内視鏡手術では，鼻詰まりだけでなくくしゃみや鼻水に対しても効果のある経鼻腔的翼突管神経切除術＋粘膜下下鼻甲介骨切除術（図2）を実施しています．2016年度はアレルギー疾患関連の外来手術を107件，入院手術を217件行いました．

花粉症診療に有効な情報となる花粉の飛散状況を調査

花粉症の症状は花粉飛散のタイミングや飛散量に症状が連動すると考えられており，花粉飛散の把握は花粉症診療において重要です．しかし，これまで主流であったダーラム（Durham）法は，計測頻度が1日に1回である，測定結果算出が後日になる，計測には熟練を要し検者間で数値が異なるなどの弱点があり，リアルタイムに花粉飛散状況を把握できる「自動花粉測定装置（PS3）」に期待が寄せられています．私はこのPS3の精度向上のためにダーラム法との比較検討を行ってきました．現在，全国15大学・30医療機関からなる「自動花粉センサー測定研究会」（会長：山梨大学大学院総合研究部耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 増山敬祐先生）で，2012年から2017年までの5年間に得られたデータの全体集計と解析が行われているところです．

本研究のパイロットスタディとして，中部地域のスギ花粉飛散状況からみると飯田下伊那地域はどのような地域かを検討したところ，飯田病院のある南信州は東海地域に匹敵するほどスギ花粉の飛散地域であることがわかってきました．図3をみると，長野県南部，愛知県北部，静岡県北部を中心とするスギ植樹が盛んな地域に一大花粉源があること，さらに，長野県の南木曽，岐阜県の福岡，山口といったヒノキで有名な地域にも一大花粉源があることが示唆されます．また，長野県は現在，松本市の測定値を代表として花粉測定/飛散予報がなされていますが，松本地域は県内で最も花粉飛散が少ない土地です．当地域の花粉飛散量の予測は，松本市よりも東海地域の花芽調査結果の方を重要視すべきであろうと考え，さらに調査を進めていく予定です．

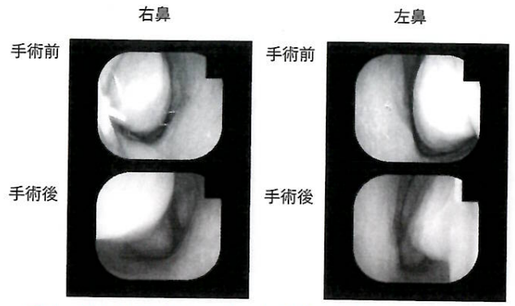

図1　日帰りのコブレーション手術の術前と術後（2年後）
1回の施術で平均2年の効果が得られ，レーザー手術より有効に感じられるとのこと．

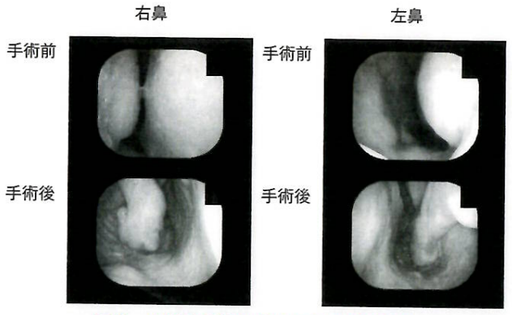

図2　内視鏡手術の術前と術後（2年後）
この患者は通年で投薬が必要であったが，術後は花粉飛散の極期のみ目症状のために抗ヒスタミン薬を頓用するだけでよくなった．

図3　2016年のスギ・ヒノキ花粉飛散の積算値の可視化マップ表現
スギ・ヒノキの植生と似た積算飛散を示している．長野県では南部の飛散量が極端に多い．

スギ・ヒノキ花粉症は，世界でもまれな人工林花粉症ですが，一方でスギ・ヒノキは日本の林業の主軸です．木材の生産量は昭和30年代をピークにおよそ4分の1にまで落ち込んでいましたが，徐々に回復の兆しを見せ始め，特に輸出量はここ10年で30倍以上に成長しています．林業の復調とともに，皮肉にも春のスギ・ヒノキ花粉量はこの先も変わらず維持されてしまうことが予想され，花粉症の効率の良い対策が今後も求められると考えています．

病病連携，病診連携で専門性を活かす

私は二次診療圏地域の患者さんの耳鼻咽喉科一般診療も行っています．医院では治療困難な慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成手術も年間20～30例手がけており，あくまで基盤専門医は耳鼻咽喉科医であると考えています．このようななかで，アレルギーの診療に関しては，北は長野市や松本市から，南は愛知県や岐阜県から患者さんに来院いただいており，これが可能であるのは，頭頸部腫瘍，頭頸部重症感染症は地域の基幹病院である飯田市立病院にお願いしたり，連日の処置の必要な患者さんは医院にお願いしたりできているからこそです．病病連携，病診連携に感謝しつつ，地方都市の医師ですがアレルギー診療の専門性を維持していきたいと考えています．

施設DATA
病床数452床．うち一般病床212床（急性期160床，回復期52床），精神病床240床．
・施設名：社会医療法人栗山会　飯田病院
・院　長：原　重樹
・所在地：〒395-8505 長野県飯田市大通1丁目15
・電　話：0265-22-5150